

日本公論

第5号

平成十六年七月七日第三種
郵便物不認可
第五号
平成二年三月一日発行

特集

グローバリズムの 是非を問う

〈小特集〉 政権交代

〈評論集〉 学外活動の記録

〈特別座談会〉 就活のホンネ

～就職氷河期といわれて～

継続企画 〈松陰と顕義〉

松下村塾の魂を学ぶ

特別座談会

6期生からみた〇〇論

フォーカスグループによる実証研究！？

特別企画

My Favorite * * * Ranking

寄稿 塚本晴二郎教授より

福田充准教授 連載企画

我が心の師 第5回

後藤和彦 先生

日本大学法学部 福田充研究室



日本大学法学部福田充ゼミナールのオピニオン誌『日本公論』第五号の特集テーマは「グローバルイズムの是非を問う」である。

グローバルイズムは否応なしに拡大し、時代とともに進化している。大航海時代に人間の移動は世界規模となった。スペインやポルトガル、オランダなどが覇権国家として入れ替わりながら世界に君臨し、イギリスの後にアメリカが覇権を引き継いだ。帝国主義によって西洋近代が世界を覆い、世界は戦争によって勝つものと負けるもの、経済によって奪うものと奪われるものに分けられた。資本はグローバル化し、宗教は国を越え、情報はメディアによって瞬時にして世界を駆けめぐる。「ヒト・モノ・カネ」が国境を越えて世界を移動する現象、そしてそのための制度を強化する動きをグローバルイズムと呼ぶことができる。

アンソニー・ギデンズはグローバル化を「暴走する世界」と表現した。ギデンズにとつてグローバルイズムは従来の国民国家の価値を低下させるが、その反対にローカルな文化的アイデンティティを勃興させる形で地域的ナショナリズムを強化する力を持つ。上下方向だけでなく横断的な力学を秘めながら、政治的、経済的に重層的なプロセスが重なり合った複合的現象である。ジャン・ボードリヤールは、グローバル化を近代性と普遍性を追求する啓蒙主義的發展段階の延長線と見なす（ユルゲン・ハーバーマスのような）連続性の仮説を否定する。グローバルイズムの真の特性はそこに非連続性を見出さない限り理解できないのである。では、そこにある断絶とはいったい何なのだろうか。

現代の学生もグローバルイズムから多大な影響を受けている。世界を旅行することができ、インターネッ

トやテレビなどのメディアによって世界と繋がり、コンテンツにアクセスできる。しかし反対に、リーマンショック以後の金融危機で日本も大不況に陥ったことで、学生たちは未曾有の就職難に直面した。日本人の若者は、金融グローバルイズムから厳しい洗礼を受けたのである。これは、グローバルゼーションが目に見える形で表層的に出現した現象の一例である。気候変動に立ち向かう環境問題や、戦争や民族自決と結びつくテロリズムの問題も、グローバルイズムと繋がっている。日本人学生の立場から世界に向けて、このグローバルイズムの是非を問いかけるのが、今回の『日本公論』第五号のテーマである。

グローバルなパワーは歴史的に常に日本を揺さぶり、影響を与えてきた。日本はその力に対応するために血を流しながら変わり続けてきた。そこに日本の栄光も悲劇もあつた。日本大学の学祖、山田顕義は明治期に西洋から法制度や軍制を多く学び、しかしながらそれをそのまま鵜呑みにするのではなく、日本的な伝統や文化に則したものに形を変えながらそのよさを取り入れようとした。その山田顕義が幼少期に学んだ松下村塾での師、吉田松陰は、ペリーの黒船に乗船し、国禁を破ってアメリカ留学を實行しようとした。その吉田松陰の弟子の一人、伊藤博文は幕末の長州藩による秘密留学により大英帝国ロンドンで学び、さらに維新後の明治政府でも岩倉使節団として欧米に渡った。近代以後、日本人はグローバルな潮流の中に積極的に身を投じていった。

日本大学法学部福田充ゼミナールの理想は吉田松陰の松下村塾である。そこで学んだ伊藤や山田が世界に向き合い奮闘したように、福田ゼミ六期生は今回このゼミ誌『日本公論』第五号において、グローバルイズムに向き合い、格闘する。

目次

〈特集〉グローバリズムの是非を問う

【座談会】グローバリズムと日本の役割 福田ゼミ六期生一同

【評論】 岡田朋子／佐々木祐子／莊子侑加／中島早紀／新村貴文／野村洋千／山下美穂

〈小特集〉政権交代

【座談会】グローバリズムと日本の役割 福田ゼミ六期生一同

【評論】 中島早紀／新村貴文

〈松陰と顕義〉松下村塾の魂を学ぶ 岡田朋子／佐々木祐子

〈評論集〉学外活動の記録

【企業インターンシップ】 岡田朋子／新村貴文

【米大使館オープンハウスイベント】 莊子侑加

【東京大学 シンポジウム】 新村貴文

【上智大学 国際シンポジウム】 野村洋千／山下美穂

【書評『メディアとテロリズム』】 佐々木祐子／新村貴文

〈特別座談会〉就活のホンネ　↳就職氷河期といわれて↳　福田ゼミ六期生一同

〈特別企画〉My Favorite *** Ranking

岡田朋子／佐々木祐子／荘子侑加／中島早紀／新村貴文／野村洋千／山下美穂

〈特別座談会〉六期生からみた〇〇論

↳フォーカスグループによる実証研究！？↳　福田ゼミ六期生一同

〈活動記録〉六期生の軌跡

〈寄稿〉「石田三成」／塚本晴二郎教授

〈連載企画〉我が心の師（第五回）

後藤和彦先生（元常磐大学教授）／福田充准教授